

2014年度

# 線型代数学演習 A

## No. 3 例題

2014年5月12日実施

1  $V = \{a_3x^3 + a_2x^2 + a_1x + a_0; a_0, a_1, a_2, a_3 \in \mathbb{C}\}$  で高々3次の複素係数一変数多項式全体のなす集合を表し、通常のとスカラ一倍により、 $\mathbb{C}$ 上のベクトル空間と考える。このとき、次の多項式たちが  $V$  において一次独立か、あるいは一次従属か、理由をつけて答えよ。

(1)  $f_1(x) = x^3 + x^2 + x + 1, f_2(x) = x^3 + x^2 + x, f_3(x) = x^3 + x^2.$

(2)  $f_1(x) = x^3 + x^2 - x - 1, f_2(x) = x^3 - x^2 - x + 1, f_3(x) = x^3 - x^2 + x - 1, f_4(x) = x^3 - 1.$

(略解) (1)  $\alpha, \beta, \gamma \in \mathbb{C}$ , かつ  $\alpha f_1(x) + \beta f_2(x) + \gamma f_3(x) = 0$  (零多項式) とする。すると、多項式として  $(\alpha + \beta + \gamma)x^3 + (\alpha + \beta + \gamma)x^2 + (\alpha + \beta)x + \alpha = 0$  となり、次が得られる。

$$\begin{cases} \alpha + \beta + \gamma = 0, \\ \alpha + \beta = 0, \\ \alpha = 0. \end{cases}$$

第3式を第2式に代入すると、 $\beta = 0$ 。これらを第1式に代入すると、 $\gamma = 0$ 。従って、 $f_1(x), f_2(x), f_3(x)$  は一次独立である。

(2)  $\alpha, \beta, \gamma, \delta \in \mathbb{C}$ , かつ  $\alpha f_1(x) + \beta f_2(x) + \gamma f_3(x) + \delta f_4(x) = 0$  であるとする。すると、 $(\alpha + \beta + \gamma + \delta)x^3 + (\alpha - \beta - \gamma)x^2 + (-\alpha - \beta + \gamma)x + (-\alpha + \beta - \gamma - \delta) = 0$  となる。ゆえに、次が得られる。

$$\begin{cases} \alpha + \beta + \gamma + \delta = 0, \\ \alpha - \beta - \gamma = 0, \\ -\alpha - \beta + \gamma = 0, \\ -\alpha + \beta - \gamma - \delta = 0. \end{cases}$$

第1, 4式より  $\beta = 0$ 。これを第2式に代入して、 $\alpha - \gamma = 0$  となり、 $\gamma = \alpha$ 。これらを第1式に代入すると、 $2\alpha + \delta = 0$ 。よって、 $\delta = -2\alpha$  となる。そこで、 $(\alpha, \beta, \gamma, \delta) = (1, 0, 1, -2)$  とおくと、確かに  $\alpha f_1(x) + \beta f_2(x) + \gamma f_3(x) + \delta f_4(x) = 0$  となることが分かる。従って、 $f_1(x), f_2(x), f_3(x), f_4(x)$  は一次従属である。

2]  $V = \{f : \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}; \text{連続}\}$  で  $\mathbb{R}$  上の実数値連続関数全体のなす集合を表し, 関数としての通常の和と実数倍により,  $\mathbb{R}$  上のベクトル空間と考える. このとき, 次の関数たちは,  $V$  において  $\mathbb{R}$  上一次独立であることを示せ.

(1)  $f(x) = \cos x, g(x) = \sin x$ .

(2)  $f(x) = 1$  (定数関数),  $g(x) = 2^x, h(x) = 3^x$ .

(略解) (1)  $\alpha, \beta \in \mathbb{R}$ , かつ  $\alpha f + \beta g = 0$  (関数として 0) であるとする. このとき,  $x = 0, \frac{\pi}{2}$  とすると,

$$0 = \alpha \cos 0 + \beta \sin 0 = \alpha, \quad 0 = \alpha \cos \frac{\pi}{2} + \beta \sin \frac{\pi}{2} = \beta.$$

従って,  $f, g$  は一次独立である.

(2)  $\alpha, \beta, \gamma \in \mathbb{R}$ , かつ  $\alpha f + \beta g + \gamma h = 0$  とする. ここで,  $x = 0, 1, 2$  とすると, 次が得られる.

$$\begin{cases} \alpha + \beta + \gamma = 0, \\ \alpha + 2\beta + 3\gamma = 0, \\ \alpha + 4\beta + 9\gamma = 0. \end{cases}$$

第 1, 2 式より  $\beta + 2\gamma = 0$ . また, 第 2, 3 式より  $2\beta + 6\gamma = 0$ . よって,  $\beta + 3\gamma = 0$  となる. これらにより,  $\gamma = 0, \beta = 0, \alpha = 0$  が得られる. 従って,  $f, g, h$  は一次独立である.